



KiVAKOプロジェクト（2018-2021）は、高等教育機関の学生を対象としたオンライン言語学習の確立を狙いとしている。特に需要はあるものの、フィンランド国内であまり一般的には学ばれていない言語に焦点が当てられており、フィンランドの言葉の豊かさ（言語的資本）を高等教育を通じて高めることが本プロジェクトの目的である。

現在KiVAKOプロジェクトでは合計十一の言語を扱っており、オンライン上で言語学習者同士が互いに交流し学びあうピア・ラーニングを取り入れるためにeTandemという多言語eラーニングシステムを採用している。全てのコースはDigiCampusという別のプロジェクトによって開発されたオンライン上の学習プラットフォームを通じて公開されており、国内の高等教育機関の学生であれば誰でもそのプラットフォームにアクセスできる。

八つの大学と十八の応用科学大学から、およそ110名がこのプロジェクトに参加した。KiVAKOプロジェクトはフィンランド国文化教育省と各参加機関の支援によって行われた。また今回のKiVAKOプロジェクトの重要な狙いのひとつとして、プロジェクト終了後も参加機関が交互に協力していく形で、KiVAKOのコースを提供していくことを視野に入れたローテーションモデルの考案がある。同時に、本プロジェクトを通じて培われた国内の教職員同士のネットワーク（繋がり）は今後の高等教育におけるデジタル教育の発展に有意義なものになるだろう。

日本語コース（四コース、各三単位）は初心者向けであり、仮名や漢字、大学や職場でよく使われる言語表現、そして日本の文化等について扱っている。